

今日を生きるから、未来に生きるへ。 モザンビークで日本の知恵をつないでいきたい。

Concept

活動主旨

豊富な資源や人口増加を背景に“資本主義最後の楽園”といわれ熱い注目を浴びるアフリカ。その東南部に位置するモザンビーク共和国は2001年以降7%を超える経済成長率を続けているが、政府予算の3割は外国からの寄付に依存している。国民の生活はというと、人口の60%は1日の収入がUS\$1.25以下（貧困ライン）の絶対的貧困状態にあり、依然として世界の最貧国の1つである。

また、2015年の人間開発報告書（国連開発計画UNDP）によると、モザンビークの人間開発指数は188ヶ国中180位。世界最下位から10番目の178位。前年度より2位順位が下がっている。また2015年までに貧困を半減することを目標に設定されたミレニアム開発目標も達成できていない。

<モザンビークのいのちをつなぐ会>モザンビーク事務局があるモザンビーク北部のカーボデルガド州でも安全な水や食料へのアクセスが確保されているとはいえない状況であり、慢性的な栄養不良や病気で5.5人に1人の子供が5歳の誕生日を迎えることができない。さらには、50%を超えるとされる失業率、農業生産性の低さ、教育の質やモラルの低さ、コミュニティの崩壊など、解決困難な課題を多々抱えている。

外資の参入が増加し、潤沢なマネーを武器にしたアフリカの新植民地時代といわれる今。

<モザンビークのいのちをつなぐ会>では、問題を上げれば数限りないこの地で、人々が生き抜くために必要な「知識と知恵」を日本との協力によって注ぎ、カーボデルガド州の貧困層が抱える問題を住民一人ひとりが自らの力で解決できるようサポートし、食と健康、教育、環境等のQOLの改善に努めることで、同じ世界に生きる人々の生命の尊厳の向上に貢献する。

Mission

ミッション

DIY, our future! ~自分たちで自分たちの未来を創造する~

その創造力を養うために日本と協働し、QOLを向上する活動を実施。

Domein

活動領域

- ①アフリカ・モザンビーク共和国における教育支援事業、人財支援事業
- ②アフリカ・モザンビーク共和国における貧困削減、環境保全事業
- ③アフリカ・モザンビーク共和国における公衆衛生設備整備事業
- ④日本とアフリカ・モザンビーク共和国の国際交流のための講演会やイベント開催事業

Vision

ビジョン

乞う立場から与える立場へのスキルアップと良好な連鎖の形成。
アフリカ・モザンビークの今と未来を支える
指導者やヒーローの輩出

Contact: may@tsunagukai.com



2015年4月～2019年3月の中期計画。

それ以降の長期計画については政治的・経済的変化が激しくマーケットを想定しがたいため作成せず。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
事業目標	活動の拡大と認知促進	実稼働体制の整備	人材スキル向上と収入の確保 1	人材スキル向上と収入の確保 2	寄付助成金の依存が低い新活動構築
特に注力する分野	マコンデ来日公演 (大規模な国際交流)	寺子屋での教室本格始動	農村での練炭製造やボン菓子製造等による収入の確保	技術研修による人員のスキルアップ	許認可 学校建設開始
◆事業活動					
教育・寺子屋	建築と設備整備	カリキュラム充実	指導員の育成	人材の多角活用化	学校の建設構想
教育・事務局	子供教育継続				
教育・その他	教育楽器の調達 教育機材調達		指導員研修		
公衆衛生・町	美化活動				
公衆衛生・農村	井戸とトイレの設置	コレラ撲滅衛生教育	浄水器製作配布	ため池建設	井戸とトイレの設置
公衆衛生・その他		農村での水環境総合センター設立準備	建設	稼働	
農業(緑化含む)	有機農業継続	食べられる植林			
食と栄養		ボン菓子製造機設置	テスト稼働とテスト販売	ボン菓子製造販売	拡販
国際交流	マコンデ族来日公演	日本語語学研修	マコンデ族来日公演	来日技術研修 vol1	来日技術研修 vol2
その他		日本の練炭技術の導入準備(日本)	現地へ導入・稼働	現地素材で機器製作 現地法人化	生産拡大
◆組織活動					
優先事項	情報開示整備	現地NGO設立	協働組織の拡大	実働メンバー給与確保	委託業務の請負
取り組み	◎独自ドメインHPの開設 ◎Natite地区の子供のFBページ開設 ・新聞社や情報誌のコラムの掲載 ・中古軽自動車購入	◎モ国認可NGOの設立 ◎実働メンバーの拡大 ・DIRE取得の整備(1年の居住許可証)	◎現地NGOを用いた人脈拡大および省庁、機関との連携強化 ◎欧米企業とのアライアンス ・現地NGOのHP制作 ・中古4WD購入	◎無給から有給へスタッフが生きていける組織づくり ・事務局の改築安全面強化	◎外資や政府の委託事業の獲得 ・随時的かつ誠実な寄付方法の模索と決定導入
予測される出来事	大統領選			カーボデルガド州東海・ガス事業運行開始	
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年

Prospect

見通し

『援助』から『投資』へ。『人材』から『人財』へ。

アフリカの経済成長の背景には、外資による資源エネルギー開発を筆頭とした投資環境の変化急増にある。また、『人材の人財化』も見逃せない。2016年開催される第6回アフリカ開発会議の場、ケニアはビジネス界の最注目株であり、その成長の源には海外へ留学した人材が帰国し、自国の経済成長のために立ち上がっている努力と人材が活きるシステムがある。

遅れをとる日本のアフリカ参入。

日本のアフリカ参入は他の先進国や中国に比べ、一步も二歩も立ち後れており、モザンビークにおいてもアジア人＝中国人との認識が一般的であり日本の影は薄い。企業の投資スピードの問題の他、参入が円滑に行われていないその一因として企業とNGOのアライアンスが日本では円滑に行われていない現実がある。

なお、モザンビークで町を走っている車両はほぼ中古の日本車であるが、2016年には中国資本のマシェジ・モータズ社がMade in Mozambique の国産車の組立販売会社が工場が実働に向けて動きはじめる。

欧米からはCSR案件、日本には協働関係を、現地では人材育成が鍵。

モザンビーク・カーボデルガド州東海の天然ガスが2018年から利益を生み出すようになる等、資源獲得による利益還元手段としての外資企業によるCSRの増加が想定される。一方、モザンビーク政府は経済発展にさらに注力し、貧困との戦いが最大目標であるとしながらも、自国の経済成長を維持加速するための市場拡大施策およびグッドガバナンス整備への比率を高めていくと思われる。

このような未来予想図のもと、**当会としては近未来的に欧米企業からのCSR案件の提案や、日本企業との協働関係が結べるような広報・ネットワークづくりを見据えつつ、現地モザンビーク人の個々の能力を高め、生活の質を向上する活動を行っていく。**

ひいては、モザンビーク人の力をコアとした、モザンビーク人によるモザンビークの成長およびグローバル社会への貢献に寄与していく。

Strategy

計画

2015年度

【事業目標】 活動の拡大と認知促進

→アフリカの中でも認知度の低いモザンビークの概要や文化について活動や広報ツールを用い発信することで、モザンビーク、当会の認知度を高め、理解を促進する。

【特に注力する分野】 マコンデ族の来日公演

【各活動の取り組み】

<教育活動> ●スラムの学舎・寺子屋の建築継続と設備整備（教育機材・楽器等の調達）

●事務局での子供教育活動

<公衆衛生活動> ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊結成）

●農村での井戸とトイレの設置

<農業活動> ●農村での有機農業の継続（協働NGO・GSB）

<国際交流活動> ●マコンデ族の来日公演

【組織活動の優先事項】 情報開示整備

<組織活動事項> ◎独自ドメインHPの開設 ◎Natite地区の子供のFBページ開設

・新聞社や情報誌のコラムの掲載

（その他）中古軽自動車購入

2016年度

【事業目標】 実稼働体制の整備

→現地有志の中でも仕事ができる人へ労力が集中しており全体の能力や労働バランスがとれていないため青年有志の増加を図るとともに、各活動における人員を再構成し、スキルアップしながら活動に参加できる仕組みを試行する。

【特に注力する分野】 スラムの学舎・寺子屋の教育活動の本格化

【各活動の取り組み】

- <教育活動> ●スラムの学舎・寺子屋の建築継続とカリキュラムの充実（教材、科目（パソコン・音楽・語学・算数など）、スケジュール、人員の整備）
●事務局での子供教育活動
- <公衆衛生活動> ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊結成） ●水タンクと浄水器の設置
●コレラ撲滅のための公衆衛生教育（協働NGO・GSB）
●農村での水環境総合センター・SATLICの設立建設準備（協働NGO・GSB）
- <農業活動> ●食べられる緑化・モリンガの植林 ●農村での有機農業の継続（協働NGO・GSB）
- <食と栄養> ●日本のポン菓子製造機の設置と稼働
- <国際交流活動> ●日本語語学研修
- <その他> ●日本の練炭製造技術の導入（日本でモデル機製作）

【組織活動の優先事項】 現地NGO設立

- <組織活動事項> ◎モザンビーク政府認可NGOの設立 ◎実働メンバーの拡大
（その他）DIRE（1年の居住許可証）取得の各種組織書類整備

2017年度

【事業目標】 人材スキル向上と収入の確保 その1

→人件費が捻出できる活動への集中および人材の各種能力（算数・パソコン・英語・建築・機械修理技術）向上。無給体制の改善。

【特に注力する分野】 農村での練炭製造やポン菓子販売による収入の確保

【各活動の取り組み】

- <教育活動> ●指導員の研修（当会で実施可能な学習の他、協働協力NGOや日系企業での研修）
●事務局での子供教育活動
- <公衆衛生活動> ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊継続） ●水タンクと浄水器の設置
●農村地区での浄水器製作配布（協働NGO・GSB）
●農村での水環境総合センター・SATLICの設立建設（協働NGO・GSB）
- <農業活動> ●食べられる緑化・モリンガの植林 ●農村での有機農業の継続（協働NGO・GSB）
- <食と栄養> ●日本のポン菓子製造機のテスト販売
- <国際交流活動> ●マコンデ族来日公演 第2弾
- <その他> ●日本の練炭製造技術の農村地区への導入

【組織活動の優先事項】 協働組織の拡大・ネットワークづくり

- <組織活動事項> ◎現地NGOを用いた人脈拡大および省庁機関との連携強化
◎欧米企業とのアライアンス
・現地NGOのHP制作
・中古4WD購入

2018年度

【事業目標】 人材スキル向上と収入の確保 その2

→前年度に引き続き人材の人財化を重視。日本、欧米企業とのアライアンスに向けた企画、交渉能力の研鑽。

【特に注力する分野】 技術研修による人員のスキルアップ

【各活動の取り組み】

- ＜教育活動＞ ●人材の多角活用化（活動の拡大に伴う最適かつスキルアップが可能な人員獲得および人員配置）
- 前年度に引き続き、当会で実施可能な学習の他、協働協力NGOや日系企業での研修も実施
- 事務局での子供教育活動

- ＜公衆衛生活動＞ ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊継続） ●海水の淡水化技術の検討
- 灌漑および生活用ため池の建設（協働NGO・GSB）
- 農村での水環境総合センター・SATLICの稼働（協働NGO・GSB）

＜農業活動＞ ●食べられる緑化・モリンガの植林 ●農村での有機農業の継続（協働NGO・GSB）

＜食と栄養＞ ●日本のポン菓子製造機の販売

＜国際交流活動＞ ●来日技術研修 第1弾

＜その他＞ ●日本の練炭製造技術の現地資材を流用した練炭製造機の製造、現地法人設立

【組織活動の優先事項】 実働メンバーの給与確保

- ＜組織活動事項＞ ◎無給から有給へ。現地スタッフが生きていける体制づくり。
（利益が確保できる部門の独立・現地法人設立、現地NGOなどの体制の再度見直し）
・人員体制再整備に伴う事務局の改築と体裁が良い事務所づくり。

2019年度

【事業目標】 寄付助成金への依存度の低い新たな活動と仕組みづくり

→外資企業とのCSRアライアンスやモザンビーク政府からの委託事業を収支の柱としていける組織づくり

【特に注力する分野】 モザンビーク政府許認可学校の建設

【各活動の取り組み】

- ＜教育活動＞ ●許認可学校建設構想 ●スラムの学舎寺子屋・各種教室 ●事務局・子供教育活動
- 前年度同様、指導員の研修は継続

- ＜公衆衛生活動＞ ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊継続） ●海水の淡水化技術の導入
- 井戸とトイレの建設（協働NGO・GSB）

＜農業活動＞ ●食べられる緑化・モリンガの植林 ●農村での有機農業の継続（協働NGO・GSB）

＜食と栄養＞ ●日本のポン菓子製造機の拡販

＜国際交流活動＞ ●来日技術研修 第2弾

＜その他＞ ●現地法人による練炭製造機の製造拡大
（農業分野と統合した現地法人も想定）

【組織活動の優先事項】 委託業務の請負体制整備

- ＜組織活動事項＞ ◎外資企業やモザンビーク政府からの委託事業の獲得
・既存の定期引き落としの寄付金のあり方ではない随時的かつ良心的誠実な寄付の仕組みを日本のIto通販企業と検討導入